

とちお「謙信」地区

(新潟県長岡市)

- 計画期間 平成19年度～平成23年度
- 面積 164ha
- 交付対象事業費 1,393百万円
- 市人口 262,387人

ポイント 上杉謙信と栃尾表町の雁木景観を活かしたまちづくり。

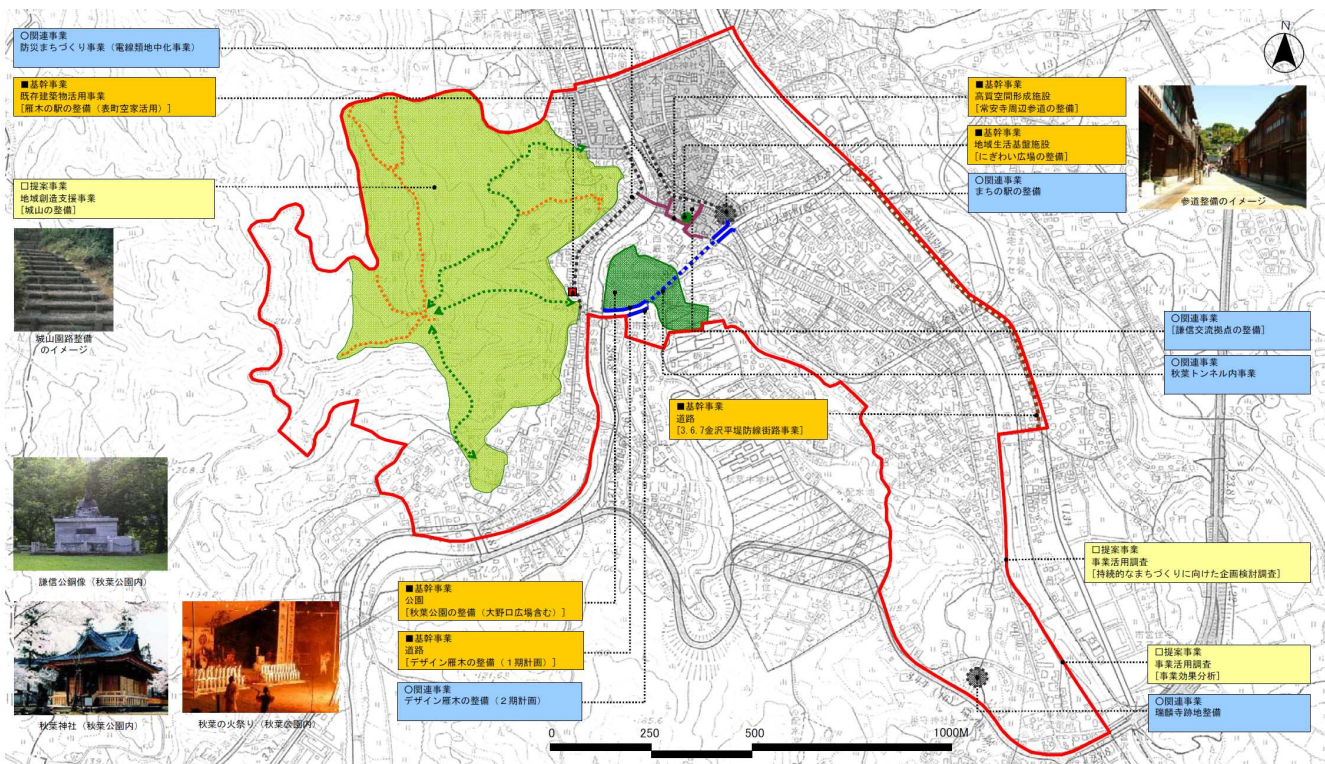
地区概要 旧栃尾市は上杉謙信公旗揚げの地として名を知られ、謙信公ゆかりの遺物が数多く残されている。また、雪国特有の建築様式であり、独自の景観を醸し出している『雁木』は、街並みとの調和を保ちながら大切に保存されている。

目標 多様なまちづくり主体の持続的な活動の実践と、栃尾の歴史・生活・文化、地域資源等を活かした拠点整備による誇りと活力あるまちづくりを実施する。

指標 地域の歴史的資源を舞台とした持続的、魅力的なまちづくりに向けては、まず住民等の地域への関心と愛着を高めることが重要であり、これがまちづくり活動を促し、やがて来訪者を引きつける魅力を放つという考えのもと、次のものを指標とした。

「雁木」に対する関心度	60% (H18) → 70% (H23)
まちづくり活動参加者数	260人 (H18) → 302人 (H24)
街なか来訪者数	44,600人 (H17) → 59,532人 (H25)

事業内容 基幹事業 (1,343百万円) → 道路(街路740m、デザイン雁木170m)、公園(1カ所30,000㎡)、にぎわい広場(330㎡)、常安寺周辺参道(265m)、雁木の駅(98坪)
 提案事業 (50百万円) → 城山の整備(40ha)、持続的なまちづくりに向けた企画検討調査、事業効果分析



地区の現況と課題

旧栃尾市は上杉謙信公旗揚げの地として全国的に名を知られ、栃尾城跡をはじめとした謙信公ゆかりの遺構や遺品が数多く残されている。また、雪国特有の建築様式であり独自の地域景観を醸し出している『雁木』は栃尾の地域資源として、今でも街並みとの調和を保ちながら大切に保存されている。しかし、旧栃尾市は主産業であった繊維産業が衰退し、中心市街地では工場跡などの遊休施設が目立つようになった。また、併せて世帯の高齢化が進み、人口と施設の空洞化が顕著である。そのため、地域の資源を活かした市街地の環境整備および都市活力の向上に向けた取り組みが求められている。

提案事業の特徴

城山の整備

栃尾城址―秋葉公園―常安寺周辺へとつながる謙信公ゆかりの地の連続的な回遊性を確保する城山内の園路整備を地域住民によるセルフビルドで整備する。

持続的なまちづくりに向けた企画検討調査

多様なまちづくり主体の持続的な活動を促進するための具体的なアイデアや仕掛けづくり等について、地域のまちづくり組織や地域住民とともに検討を行う。

これらの検討を踏まえた上で、地域住民自らが「常安寺周辺界隈」や「秋葉公園」などの環境整備に取り組む機会を設け、住民の地域に対する愛情や誇りを醸成し、住民主体の持続的なまちづくり活動の機運を高める。

計画策定プロセス

委員会の開催

新潟県や長岡市などの行政機関、地域に根ざした活動を展開している新潟大学や長岡造形大学の教授、地元で活動する各NPO法人、地元の建築業協会、地元住民などから構成する計画策定委員会を3回開催（H18年度）し、都市再生整備計画を策定している。

平成19年度からは、持続的なまちづくりに向けた企画検討委員会として、都市再生整備計画に位置づけた各計画の具体的な内容や、多様なまちづくり主体の持続的な活動を促進するための具体的なアイデアや仕掛けづくり等について検討した。

継続的な地元住民等との話し合い

地域住民との話し合いを通じて、城山、秋葉公園、常安寺周辺など謙信公にゆかりの地の歴史的な謂われ等に関する掘り下げを行っている。また、これら謙信公ゆかりの舞台では、地域住民を主体とした組織が様々な活動を展開している。これらの組織との継続的な話し合いを持つ中で、持続的な活動に向けたアイデアや仕掛けづくり等の方向性を探っている。

地元大学とのコラボレーション

雁木関連の事業については、地元で雁木づくり活動を展開している新潟大学とのコラボレーションにより展開している。

新潟大学との協働により、これまでの取り組みの記憶と今後の持続的な活動の拠点となる雁木の駅を整備し、「表町の雁木づくり」の更なる充実を図る。



▲ 城山遊歩道（謂われのある現道を活かした園路として整備）



▲ 常安寺参道の整備（昔の面影を意識した参道として整備）



▲ 委員会の様子



▲ 新潟大学の学生と地域住民による雁木づくりの様子